

オープンプラットフォームの仕組み2 “オープンプラットフォームの展開可能性”

拡充するオープンプラットフォームとユーザのベネフィット

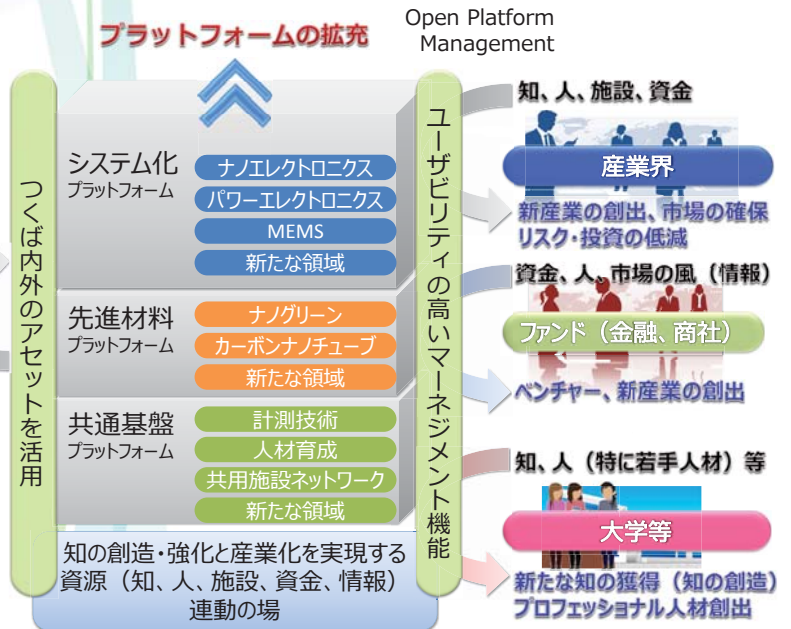
■オープンプラットフォームで連動するユーザのベネフィット

●ユーザ(企業、大学、研究機関)は単独で取り組むより、はるかに少ない知(技術)、研究者、施設・装置等と資金を拠出することで、イノベーションへの取組みを低リスク、低コストで加速的に進めることができます。新産業創出と新たな市場確保の可能性が高まります。

●ファンド(金融・証券・商社など)の市場の風をもたらす機関は、つくばに集まるイノベーションの芽となる既知の技術等にくわえ、新たな技術、研究者、パートナーとなる可能性ある企業等の情報を知ることができ、新たな連携の形成が可能となります。イノベーション促進においてつくばに欠けていた技術等を市場へとつなげる新たな連携の場の形成と機能が強化されます。

●つくばの知や研究者を体系的に位置づけ、先端設備等とともに活用する次代を担う人材育成に持続的に取り組むことができます。

●ユーザからの様々な情報、ニーズおよびつくば内外のアセットがオープンプラットフォームの場で連動して、触発されることによって新たな知の創造につながり、拡充されることでオープンプラットフォーム自体の境界はさらに外へと拡張され、ユーザにとっての活用可能性が広がります。



技術マネージメント戦略 : コア技術のオープンプラットフォームへの展開

●TIA-nanoの第1期の成果と萌芽した将来のコアとなる技術について、さらなる拡張と融合の可能性を検討し、最適なオープンプラットフォームへ移植して産業化を加速させます。そのための連携企画の取組み、インフラの整備などマネージメント機能を一層強化します。

知の創造・強化		産業化			
創出・強化する知	主要インフラ等	システム化プラットフォーム	先進材料プラットフォーム		
今後オープンプラットフォーム化を模索するコア技術候補 ・次々世代デバイス ・次々世代のナノレベル計測・加工技術 ・次世代・次々世代パワーデバイス ・新原理センサ・アクチュエータ技術 ・グリーンイノベーション・マテリアル ・ナノカーボン材料の新規応用技術 ・ナノバイオ等の新規融合領域 ・超小型・超高性能の最先端加速器関連技術 ・高温超電導関連技術開発 ・次世代パワーレーザ技術 等	筑波大学病院や中核機関の研究拠点の利活用と整備	蓄積されている知の例 (コア技術等例) ナノエレクトロニクス ナノトランジスタ、原子スイッチ、シリコンフォトニクス、スピントロニクス (メモリ)、ミニマルファブ	蓄積されている知の例 (コア技術等例) ナノグリーン 熱電ナノ材料、リチウム空気二次電池、燃料電池触媒、ダイヤモンドトランジスタ		
		主要インフラ等 SCR	主要インフラ等 SiC量産試作ライン MEMSファウンドリー	蓄積されている知の例 (コア技術等例) カーボンナノチューブ 単層CNT(SG、e-DIPS)、複合材料	主要インフラ等 NanoGREEN棟、低炭素ハブ拠点 CNT量産プラント
		共通基盤プラットフォーム 計測技術 人材育成 共用施設ネットワーク 新たな領域	共通基盤プラットフォーム 計測技術 人材育成 共用施設ネットワーク 新たな領域	蓄積されている知の例 (コア技術等例) 計測技術 光・量子発生技術、光・量子センシング、光・量子ナノ材料	主要インフラ等 フォトンファクトリー

オープンプラットフォームマネージメント機能の強化により
知の創造・強化や多様な企業による産業化を実現

・ユーザビリティの強化に向けたラベリング
・コア技術の創出、活用、実用化に係る研究マネージメント
・事業パートナー・ファンド等との連携
・ネットワークを介したつくば内外との連携
・必要のコア技術の産業化ニーズ把握等の技術マネージメント
・必要の能力を高めるプラットフォーム構築に向けた広報活動、国際戦略構築